

令和3年12月1日

学生各位

香川県立保健医療大学長

「感染予防対策期」における注意喚起について(依頼)

香川県では、新規感染者数ゼロの日が続くなど、感染状況が落ち着きを見せていることから、警戒レベルを引き下げ「感染予防対策期」に位置付けられています。しかし、第6波と言われる再度の感染拡大につながらないように、引き続き、感染防止対策の徹底を図る必要があります。

学生の皆さんは、これまでと同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「感染しない」「感染させない」ことを強く意識して、以下のことを遵守して、新型コロナウイルスの感染拡大のリスクを高めるような行動を慎み、体調管理に努めるよう理解と協力をお願いします。

○外出する場合は、基本的な感染防止策を徹底して行動すること

- 発熱等の症状がある場合は、外出を控えること
- 感染対策が徹底されていない飲食店等の利用を控え、「かがわ安心飲食認証店」など、感染対策が徹底された飲食店等を利用すること
- 会食をする際には、「マスク会食」や座席間隔の確保、換気などの三密回避を徹底すること
- 感染リスクが高まる「5つの場面」(別添参考)に留意し、そうした場面での会食については、「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を行うこと

また、登校にあたっては、引き続き、以下にご留意いただきますよう理解と協力をお願いします。

なお、今後の状況変化に応じて、新たな対応を取る場合は、ホームページでお知らせしますので、確認をお願いします。

<登校に際しての注意事項>

- ①登校前に体温を測定し、体温や健康状態を確認・記録する。
- ②発熱やのどの痛み、咳等の風邪症状が見られる時は、かかりつけ医等の地域で身近な医療機関に電話で相談するとともに、学年担任の教員に連絡して休む。
- ③息苦しさ、強いだるさ、高熱等の強い症状がある場合は、「香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター」に相談し、学年担任の教員又は本学教務担当に電話で報告・相談を行う。

「香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター」

電話番号 0570-087-550 (専用ナビダイヤル)

相談日時 土曜日・日曜日・祝日を含む毎日24時間

- ④マスクを着用して登校し、手洗いやアルコールによる手指消毒、咳エチケットを心がけ、感染防止に注意を払う。
- ⑤自宅で検温できなかった学生は、事務局にあるセンサー式の体温計で体温チェックを行う。
- ⑥学内では可能な限り人との間隔を開けて行動するほか、大人数で集まらないように心がける。
- ⑦臨地実習においては、実習先施設の注意事項を遵守し、感染防止対策の徹底を図る。

<図書館について>

開館時間は次のとおりです。

月～金曜日：9時～19時、土曜日：9時15分～13時

図書館の利用にあたっては、感染防止策（流水と石鹸による手洗い、アルコールによる手指消毒、マスク等の咳エチケット、こまめな換気、身体的距離の確保）の徹底にご協力ください。

<学食について>

食堂の利用にあたっては、感染防止策（流水と石鹸による手洗い、アルコールによる手指消毒、マスク等の咳エチケット、こまめな換気、近距離での会話の禁止など）の徹底にご協力ください。なお、食堂以外（講義室等）で飲食する場合も食堂と同等の感染防止策を講じるようお願いします。

<サークル活動等について>

学内におけるサークル活動は、感染防止対策（マスクの着用、手洗いや手指消毒、3密の回避、換気等）を厳守して行って下さい。ただし、学内・学外を問わず、不特定多数が集まるイベント等での活動は禁止します。

なお、活動の実施にあたっては、活動日時や活動場所、活動内容、参加者などを記録しておいてください。

また、全てのサークル活動において、会食をする際には、「マスク会食」や座席間隔の確保、換気などの感染対策を徹底してください。

<出席停止（公休）の扱いについて>

以下に該当する場合は、出席停止（公休）の扱いとしますので、絶対に登校しないでください。

○出席停止（公休）とする目安

- ・感染が判明したものの者（指定された期間は出席停止）
- ・感染者の濃厚接触者に特定された者（指定された期間は出席停止）

上記の場合のほか、発熱等の風邪症状がみられる者は、学年担任の教員に電話で報告・相談するとともに、手続き等については、教務・学生担当の指示に従ってください。

公休願の作成の際に必要ですので、出席停止中の体温・健康状態などを記録しておいてください。

◆香川県感染情報

https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/dirl/dirl_6/dirl_6_2/wt5q49200131182439.shtml

【本学の連絡先】087-870-1212（平日午前8時30分～午後5時15分まで）

感染リスクが高まる「5つの場面」

別添3

場面①

飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で注意力が低下する。また、聴覚が鈍磨し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



場面②

大人数や長時間におよぶ飲食

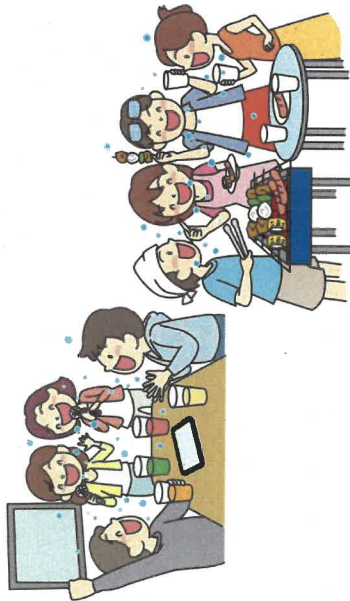
- 長時間におよぶ飲食、例えば深夜のしご酒では、昼間の通常の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- また大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③

マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクログ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケや野外のバーベキューでの事例が確認されている。



場面④

狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



場面⑤

居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

